

# 全身疾患を写す鏡としての 発汗異常症 —発汗異常症の診察の進め方と Fabry病の話題を含めて—

**開催形式** 本セミナーはLIVE配信いたします。

**日時** 2020年 **11**月**21**日<sup>±</sup> 15:20▶16:20

**ご視聴方法** 詳細は学術大会ウェブサイトよりご覧ください。  
<http://jdatokyo84.jp>

**座長** **室田 浩之** 先生

長崎大学大学院医歯薬総合研究科  
皮膚病態学分野 教授



**演者** **福永 淳** 先生

神戸大学大学院医学研究科  
内科系講座 皮膚科学分野 准教授



汗はホメオスタシス維持に大きく関わり、汗の量的な異常と汗に対する反応の異常は患者のQOLと健康を障害する。汗の量的な異常が関与する疾患には、多汗症と無(乏)汗症があり、無(乏)汗症の中でもAIGAは後天的に生じる原因不明の全身性の無汗症を呈する疾患で、AIGAの診断過程においては鑑別すべき全身疾患が多数存在する。ファブリー病を含む先天性の無汗症、神経原性疾患、内分泌代謝疾患、自己免疫疾患を除外することはAIGA診察における重要ポイントである。一方で、発汗診察は古くて新しい皮膚科領域で、発汗試験の手法一つをとっても標準化がなされおらず、確定診断において悩ましい症例によく出くわす。我々は無汗症の診察過程でAIGA以外の全身性/皮膚疾患が原因として判明した症例(ファブリー病を含む)を経験しておりその実例を紹介する。汗に対する反応の異常としては汗アレルギーがあるが簡便な検査法がないため、診察室で代用できる検査法を紹介する。汗の量的な異常と汗に対する反応の異常という側面から最近の発汗関連研究を紹介し、全身を写す鏡としてそして皮膚科医の幅を広げる武器として汗を意識することの重要性をお伝えしたい。